

# 大学院現代文化研究科 案内

# '25

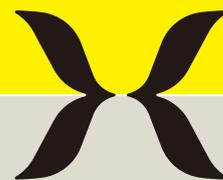
- 現代文化専攻

日本語文化研究

国際言語文化研究

情報メディア研究

- 臨床心理学専攻



もつと深く  
もつと広く  
学びたい意欲に  
応えます



# 比治山大学大学院

大学院現代文化研究科 修士課程

## 現代文化専攻

- 日本語文化研究
- 国際言語文化研究
- 情報メディア研究

## 臨床心理学専攻

## 目次

現代文化研究科 三つの方針	02
大学院概要	03
現代文化専攻 日本語文化研究	04
現代文化専攻 国際言語文化研究	05
現代文化専攻 情報メディア研究	06
臨床心理学専攻	07
担当教員の研究分野・領域	10

# 現代文化研究科 三つの方針

## 現代文化専攻

### 卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

現代文化専攻では、所定の単位を修め、最終試験に合格することによって、以下に掲げる知識や能力を身に付けた学生に修了を認定し、修士(文学又は学術)の学位を授与します。

- ① 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能を身に付けている。
- ② 自ら設定した研究課題に対する修士の学位にふさわしい研究を行う能力を身に付けている。
- ③ 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力を身に付けている。

### 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

現代文化専攻では、現代文化への専門的識見をもって知識基盤社会の発展に貢献できる人を養成するため、次の3つの研究領域により構成し、カリキュラムを編成しています。

- ① 日本の言語文化への専門的識見を養成するため、日本語・日本文学を中心とした日本の言語文化を幅広く学修する日本語文化研究の領域
- ② 欧米の言語文化への専門的識見と実践的能力養成のため、欧米の言語・文学さらに言語教育学や第二言語としての日本語教育学を学修する国際言語文化研究の領域
- ③ 高度情報化社会と情報メディアへの専門的識見を養成するため、マスコミュニケーションを中心とした情報の発信と表現のあり方や情報管理、セキュリティ等について学修する情報メディア研究の領域

### 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

現代文化専攻は、次のような人を求めています。

- ① 現代文化専攻の日本語文化・国際言語文化・情報メディアの各研究領域に関心を持ち、いずれかの研究領域において自ら設定した研究課題を探究する意欲を持つとともに、修得した専門的知識・技能をもって知識基盤社会の発展に貢献することを目指す人
- ② 現代文化専攻のいずれかの研究領域において学士課程修了相当の知識・技能を有する人

## 臨床心理学専攻

### 卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

臨床心理学専攻では、所定の単位を修め、最終試験に合格することによって、以下に掲げる能力を身に付けた学生に修了を認定し、修士(文学又は学術)の学位を授与します。

- ① 公認心理師の職責を理解し、関係者と協働しながら支援等を実践する能力を身に付けている。
- ② 心理査定、心理面接を行う高度な専門的知識と技能を身に付けている。
- ③ 心理学の高度な専門的知識と技術をもって地域社会に貢献する能力を身に付けている。
- ④ 心理学についての研究を行う能力を身に付けている。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

臨床心理学専攻では、ディプロマ・ポリシーに基づき、次に掲げる知識、能力を身に付けることを意図したカリキュラムを編成しています。

- ① 心理学についての高度な専門的知識を深めるために、保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働領域の科目を構成しています。
- ② 心理査定、心理面接を行う技能を高めるための臨床心理に関する講義・演習・実習を構成しています。
- ③ 心理学についての研究を行う能力を高めるために研究法に関する講義、演習を構成しています。
- ④ 人間関係を中心とする心理的諸問題を理解し、それらの健康的改善を支援する能力を高めるために心理実践実習を構成しています。
- ⑤ 専門的知識、技法を生かして地域に貢献する能力を高めるために地域支援や健康教育に関する科目を構成しています。

## 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

臨床心理学専攻が求める学生は、心理学の幅広い知識を生かして、公認心理師の資格を有する専門家として、よりよい地域社会づくりに広く貢献しようとする熱意を持った人です。臨床心理学専攻は、次のような人を求めています。

- ① 大学で公認心理師に必要な科目を修め、心理学全般にわたる専門的知識をもつ人
- ② 豊かな共感性に裏付けられた援助的コミュニケーション能力をもつ人
- ③ 心理学に関する高い専門性と技能を習得し、公認心理師の資格を取得して、地域社会に貢献しようとする人
- ④ 心理学についての研究を行う意欲をもつ人

## 知識基盤社会の実現をめざす、 地域に開かれた「知」の拠点

現代文化研究科は、現代文化専攻と臨床心理学専攻で構成されています。現代文化専攻は、「日本語文化研究」、「国際言語文化研究」、「情報メディア研究」の領域から構成されており、地域に密着した研究を推進することにより、知識基盤社会を支える知的人材の養成をめざした教育研究を実施。また、臨床心理学専攻は、現代社会における人間の心の問題や病理的現象、さらには人間関係の諸問題についての研究を推進することによって、専門的職業人として社会的要請が一段と強くなっている「こころの専門家」の育成をめざした教育研究を行います。いずれも学部での学びに対応した専攻になっており、さらに「学び」を深めることができます。

### ■ 中学校・高等学校教諭専修免許状(国語／英語)の取得を希望される人へ

現代文化専攻(「情報メディア研究」を主として専攻する者は対象外)において、既に一種免許状を取得している人は、次の2コースのどちらかを選択することにより中学校・高等学校教諭専修免許状(国語／英語)を取得することができます。詳しくは事前に入試広報課にご相談ください。

- 修士(専修)コース(修士の学位授与を希望する人)／該当する研究分野等で30単位以上修得し、修士論文等を提出し合格すると、修士の学位が授与されるとともに専修免許状を取得することができます。
- 教職(専修)コース(修士の学位授与を希望しない人)／該当する「教科及び教科の指導法に関する科目」から30単位以上修得すると、教職課程修了証を授与され専修免許状を取得することができます。

### ■ 2年を超えて在学することを希望される人へ

現代文化専攻では、職業を有している等の事情で、授業科目の計画的な履修により、修士課程の標準修業年限である2年を超えて在学することを希望される人のために、長期履修学生制度を設けています。詳しくは、入試広報課へお問い合わせください。

## 教育目的

日本語文化研究、国際言語文化研究、情報メディア研究、の3つの研究領域で構成されている現代文化専攻では、高度な職業教育につながる教育・研究を行うと同時に、地域に密着した教育・研究を推進します。

そして、各分野相互の科目履修を奨励して、知的基盤社会を支える幅広い知識と技能を有する人材を育成します。

## 日本語文化研究

**概要** 日本語文化研究の領域では、高度な日本語運用能力と広い日本語文化の知見に基づく社会的適応力を持つ人材の育成を目指しています。さらに、中・高等学校教諭専修免許状(国語)の取得を目指した“高度な専門的知識・技術”を養成します。現代日本語論、日本語の歴史、日本文学、日本文化、国語科教育にわたる多彩な研究分野があり、日本語に関する4科目、日本文学に関する8科目、日本文化に関する4科目、国語科教育に関する3科目、特別演習4科目、計23科目を開講しています。

 日本語・日本文学を究め  
 現代日本の言語文化をリードする人材を育成

担当教員	担当科目
戸田 利彦	日本語特講 I (現代日本語論) 「気」の表現の意味用法と体系、「気」の文化論を研究する 日本語特講 II (現代日本語論) 身体語彙の慣用表現の意味用法、日本語の表現文化を研究する
刀田 絵美子	日本語特講 III (日本語史論) 鎌倉期書写の文献資料の精読を通じて日本語史を研究する 日本語特講 IV (日本語史論) 「日本語特講III」に引き続き文献精読を通じて日本語史を研究する
山崎 真克	日本文学特講 I・II (古代文学論) 古代中世日本文学、主として王朝物語・説話文学を研究する 日本文学特講 III・IV (中世文学論) 古代中世日本文学、主として中世の和歌・物語、軍記を研究する
二宮 智之	日本文学特講 V (近代文学論) 日本の近代文学作品の分析から、その特色について研究する 日本文学特講 VI (近代文学論) 夏目漱石の作品を分析し、その特色について研究する
九内 悠水子	日本文学特講 VII (現代文学論) 昭和～現代の作家についてその特色を研究する 日本文学特講 VIII (現代文学論) 昭和～現代の作品についてその特色を研究する
山口 佳巳	日本文化特講 I (文化史論) 古代から近世における社寺建築の様相について学び、日本文化について研究する 日本文化特講 II (文化史論) 古代から近世における住宅および住居の様相について学び、日本文化について考究する
安間 拓巳	日本文化特講 III (文化論) 考古資料から過去の生活文化を研究する 日本文化特講 IV (文化論) 考古資料から過去の社会経済を研究する
下田 実	国語科教育特講 I～III 実践のための学問としての国語科教育学の特質を明らかにするとともに、実践と理論の往還によって研究を深めるための課題・方策・視点を検討する
戸田・刀田・山崎 二宮・九内 山口(佳) 安間・下田	日本語文化特別演習 I～IV 修士論文に関する研究

担当教員は、2024年5月現在のものです。

## 進路

国語科教員、日本語教員、  
大学院博士課程後期、一般企業

## 取得可能な免許状

高等学校教諭専修免許状(国語)  
中学校教諭専修免許状(国語)

## 教育目的

日本語文化研究、国際言語文化研究、情報メディア研究、の3つの研究領域で構成されている現代文化専攻では、高度な職業教育につながる教育・研究を行うと同時に、地域に密着した教育・研究を推進します。  
そして、各分野相互の科目履修を奨励して、知的基盤社会を支える幅広い知識と技能を有する人材を育成します。

## 国際言語文化研究

**概要** 国際言語文化研究の領域では、英語を中心とする言語や文化の教育研究を行います。また、高度な言語コミュニケーションの習得も目指します。中・高等学校教諭専修免許状(英語)の取得と共に、中・高等学校の現職英語教員のリメディアル教育にも力を入れます。英語学に関する8科目、英語教育に関する3科目、英米文化・文学に関する4科目、日本語教育に関する2科目、特別演習4科目、計21科目を開講しています。

欧米の言語・文化を究め国際的な  
コミュニケーション能力の優れた人材を育成

担当教員	担当科目
重迫 和美	欧米文学特講 Ⅲ (現代アメリカ文学) フォークナーを中心にアメリカ文学を学ぶ
	欧米文学特講 Ⅳ (現代アメリカ文学) 欧米文学特講Ⅲに引き続き、フォークナーを中心にアメリカ文学を学ぶ
佐々木 淳	言語学特講 Ⅴ (対照言語学) 日本語と他言語を比較する
	言語学特講 Ⅵ (対照言語学) 言語学特講Ⅴに引き続き、日本語と他言語を比較する
Damon E. Chapman	言語学特講 Ⅲ (応用言語学) 異文化理解の観点から実践的な異文化間コミュニケーションを学ぶ
	言語学特講 Ⅳ (応用言語学) 言語学特講Ⅲに引き続き、さらに異文化間コミュニケーションを深く学ぶ
中里 有二	日本語教育学特講 Ⅰ 教授法、教材・教具論を研究する
	日本語教育学特講 Ⅱ 日本語学、日本事情、評価法を研究する
大里 弘美	英語教育学特講 Ⅱ カリキュラム開発の観点から英語教育学を学ぶ
	英語教育学特講 Ⅲ 英語教育学特講Ⅱに引き続き、さらに実践的な研究を深める
藤田 郁	欧米文学特講 Ⅰ (近代イギリス文学) 詩を中心としたイギリス文学研究手法を学ぶ
	欧米文学特講 Ⅱ (近代イギリス文学) 欧米文学特講Ⅰで学んだ手法を応用し、イギリス文学を研究する
重迫・佐々木 Chapman 中里・大里・藤田	国際言語文化特別演習 Ⅰ～Ⅳ 修士論文に関する研究
中尾 佳行	言語学特講 Ⅰ (言語科学) 言語学全般の知識を深める
	言語学特講 Ⅱ (言語科学) 言語研究の手法を学んでいく
今林 修	言語学特講 Ⅶ (英語学) 英語学の諸理論を学ぶ
	言語学特講 Ⅷ (英語学) 言語学特講Ⅶに引き続き、英語学の処理論を学ぶ
本岡 直子	英語教育学特講 Ⅰ 英語教育学について学ぶ

非常勤講師

担当教員は、2024年5月現在のものです。

## 進路

英語教員、日本語教員、  
大学院博士課程後期、外資系企業、一般企業

## 取得可能な免許状

高等学校教諭専修免許状(英語)  
中学校教諭専修免許状(英語)

## 教育目的

日本語文化研究、国際言語文化研究、情報メディア研究、の3つの研究領域で構成されている現代文化専攻では、高度な職業教育につながる教育・研究を行うと同時に、地域に密着した教育・研究を推進します。  
そして、各分野相互の科目履修を奨励して、知的基盤社会を支える幅広い知識と技能を有する人材を育成します。

## 情報メディア研究

**概要** 情報メディア研究の領域では、デジタル化の進展に伴うマスコミ・メディア界の急激な変化を見据えて、新時代の情報創造・発信のあり方、さらには情報社会と観光の関わりについて深い識見を持つ人材を育成することを目指しています。このために、情報社会という枠組みをベースとして、マスコミの現状とその方向、そして、その中で情報の多様化する表現と的確な発信方法、さらには複雑化する情報の本質的な問題やその管理について研究します。

情報の創造と発信のあり方について深い識見を持ち、  
次世代の情報社会に貢献する人材を育成

担当教員	担当科目
山田 知子	観光特講 I (地域振興) 観光政策と地域における内発的・循環的まちづくりの関係性について研究する
	観光特講 II (地域振興) 観光政策における行政支援の有効性・限界性について研究する
児玉 勝司	マスメディア特講 III (マスコミ) 言語および非言語のコミュニケーションについて多角的に研究する
	マスメディア特講 IV (マスコミ) 新旧メディアが社会に及ぼす影響について研究する
山本 敏久	情報管理特講 V (マーケティング) マーケティングにおける顧客創造の方法について研究する
	情報管理特講 VI (マーケティング) 実在する企業のマーケティング成功事例を分析する
山口 梨江	情報管理特講 III (情報分析) 情報デザインによる課題解決の具体事例を分析する
	情報管理特講 IV (情報分析) 情報デザインにより解決できる課題を発見し具体的手法について研究する
林 春伽	観光特講 III (観光メディア) 観光客を受け入れる地域社会の文化変容を多様な理論をもとに研究する
	観光特講 IV (観光メディア) 観光地の生活及び文化変容を通して観光の文化・社会的意義を研究する
山田(知)・児玉 山本・山口(梨) 林	情報メディア特別演習 I~IV 修士論文に関する研究
<選考中>	マスメディア特講 V・VI (映像表現)
<選考中>	情報管理特講 VII・VIII (広告)

※マスメディア特講I・II(情報社会)については、非常勤講師を予定しています。

担当教員は、2024年5月現在のものです。

## 進路

マスコミュニケーション関連企業、一般企業(広報部門)、印刷・出版社、大学院博士課程後期

## 心理学的知見と実践力を備えた 公認心理師・臨床心理士の育成

国家資格 公認心理師カリキュラムに対応(現役合格率83.3%、2024年3月)

公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会第1種指定大学院

### 教育目的

臨床心理学専攻では、現代の人間関係を中心とする心理的な諸問題や、それらを健康的な方向に改善するための臨床心理学をはじめとする心理学の理論と技法について、講義・演習・実習を通じて学び、人間の心理的な諸問題に具体的に対処できる人材を育成します。

### 概要

本学現代文化学部社会臨床心理学科では、“現代社会における複雑・多様なこころの問題に対処し、豊かな地域社会の実現に貢献できる人材を育成する”ことを目指していますが、本専攻では、そのエキスパートを育てます。豊かな人間関係に根ざしたより良い社会適応を図れるように援助する公認心理師・臨床心理士となって、あなたも社会に貢献してみませんか。カリキュラムには、心の問題の改善を図る実践的な実習科目に加え、心理学を基本からしっかりと学ぶための科目も用意しています。また、最新の文献をそろえた図書館、10号館4階の臨床心理面接実習室や心理学実験室、5号館2階の心理相談センターなど、施設・設備を完備しており、学生は、いつでもこれらを利用して学習や研究、実習を行うことができます。

### 担当教員

### 担当科目

深田 成子

#### 発達心理学特論

発達心理学の主な理論について学び、人間の発達を考える

吉田 弘司

#### 心理学特別演習Ⅰ

障害児・認知症者の認知機能の評価とリハビリ支援に関する研究を行う

伊藤 克浩

#### 心理統計法特論

研究を進める上で必要なデータ解析の基礎、多変量解析等を学ぶ

一円 禎紀

#### 臨床心理査定演習Ⅱ

投射法検査の実施法と解釈を学ぶ

#### 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ)

見学などによる実習を通して医療分野での心理支援について学ぶ

塚脇 涼太

#### 心理学研究法特論

実験法・調査法・面接法などの心理学研究法について解説する

堀内 聡

#### 心理療法特論

認知行動療法について学ぶ

#### 臨床心理実習Ⅱ

事例検討を通して臨床心理学的支援の実践について学ぶ

義田 俊之  
臨床心理面接特論 II  
心理的な支援に共通する基礎的な事項を学ぶ  
心理実践実習 IV  
ケース担当実習を通して、医療分野での多職種連携について学ぶ

吉儀 瑠衣  
臨床心理実習 I (心理実践実習 III)  
見学などによる実習を通して医療分野での心理支援について学ぶ  
心理実践実習 V  
面接と検査の実習を通して心理支援の技法について学ぶ

神谷 真由美  
心理相談実習 A  
心理面接で用いる技法の実践への応用について実習を行う  
心理実践実習 IV  
ケース担当実習を通して、医療分野での多職種連携について学ぶ

三原 健吾  
臨床心理学特論 I  
心理士による臨床活動(教育、医療、福祉等)の実際について解説する

木谷 智子  
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)  
心理査定の種類や実施の仕方について学ぶ  
臨床心理基礎実習  
臨床心理面接の基礎技法について実習する

金子 紗枝子  
教育分野に関する理論と支援の展開  
教育分野における諸課題とその支援方法について学ぶ

吉野 敦雄  
保健医療分野に関する理論と支援の展開

李木 明德  
福祉分野に関する理論と支援の展開

堀田 裕司  
産業・労働分野に関する理論と支援の展開

岡野 泰子  
投映法特論

三好 真人  
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践

山本 学  
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開

非常勤講師

担当教員は、2024年5月現在のものです。

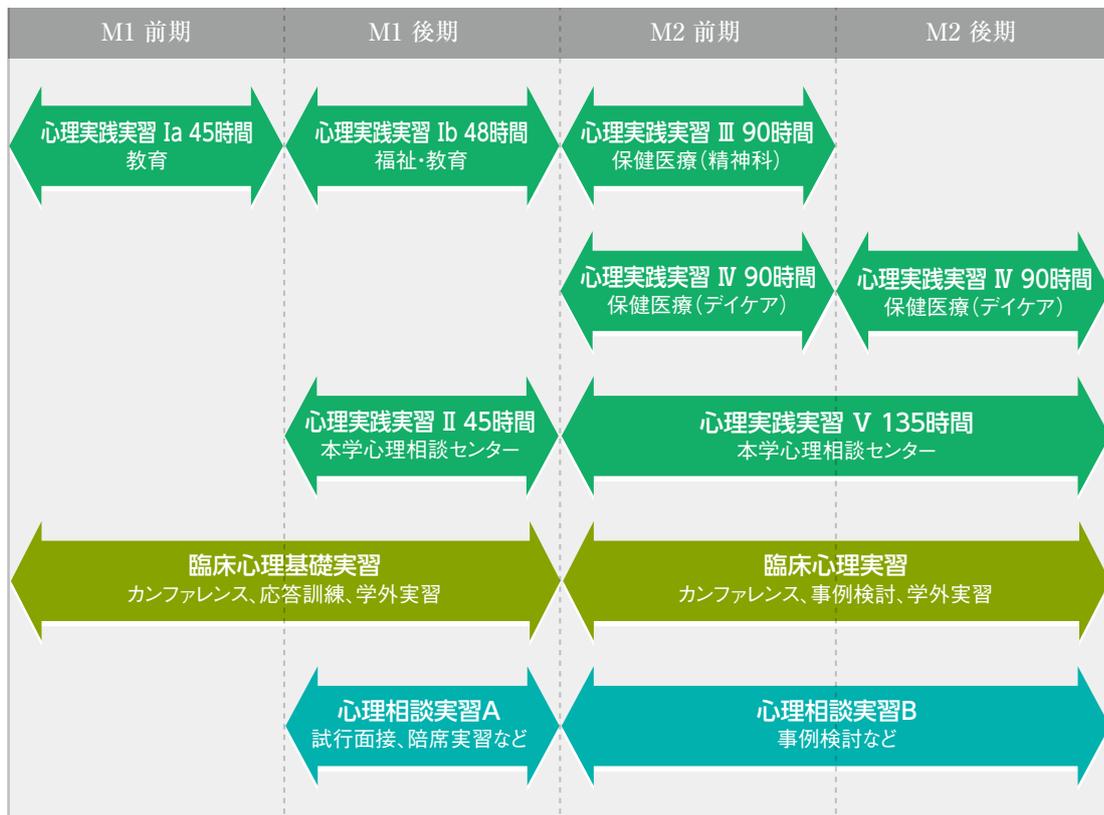
## 進路

公認心理師・臨床心理士としての専門職(医療・福祉機関の職員、スクールカウンセラーなど)  
公務員心理職(児童相談所心理判定員、少年鑑別所技官、家庭裁判所調査官など)  
一般企業、大学院博士課程後期

## 実習科目

臨床心理学専攻では、公認心理師と臨床心理士の両方のカリキュラムに対応した実習を行っています。保健医療、福祉などの領域での学外見学実習のほか、教育機関、精神科病院や心理相談センターでのケース担当実習など、さまざまな心理支援の場面を経験することができます。

### 実習の概要



## 心理相談センター

心理相談センターは、大学院現代文化研究科の附属施設として、臨床心理学専攻大学院生の実習の場であるとともに、地域社会の心の健康を支援する相談活動の場、心理臨床に関する研究・研修の場として開設されています。

このセンターには、4つの面接室、2つのプレイルーム、記録作成室などがあり、ゆったりと実習や相談活動を行うことができます。

一般の方の相談には、保健医療、教育、福祉、司法・犯罪の領域などでの臨床経験を持つ教員(公認心理師・臨床心理士)が相談に応じています。また、大学院生は、教員の指導の下で研修相談員として心理支援の実習を行います。

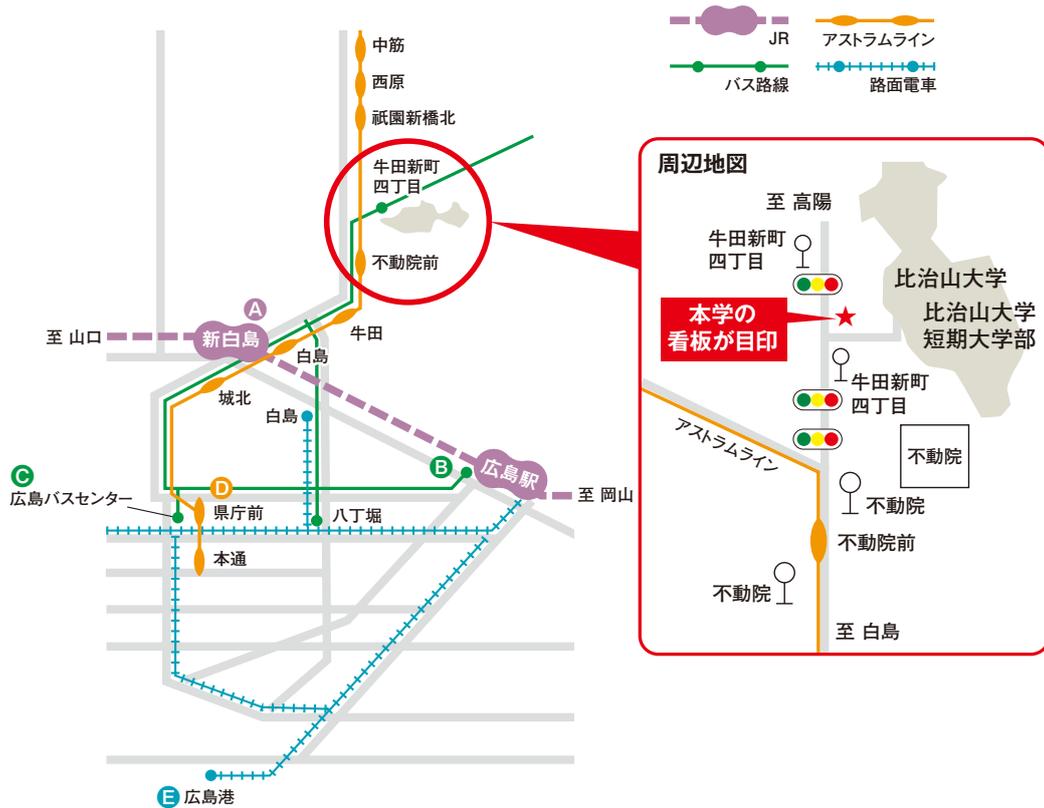


# 担当教員の研究分野・領域

	職名	教員名	研究分野・領域	
現代文化研究	教授	戸田 利彦	日本語学、「気」の表現を中心とした表現文化論	
	教授	山崎 真克	院政・鎌倉期の和歌・歌論、江戸期出雲歌壇の人的交流の研究	
	教授	安間 拓巳	考古学による手工業生産および地域文化の研究	
	教授	九内 悠水子	日本近代文学(三島由紀夫研究)	
	准教授	二宮 智之	日本近代文学(夏目漱石・明治、大正の文学)	
	講師	刀田 絵美子	院政・鎌倉期を中心とした文字・表記の歴史的研究	
	講師	山口 佳巳	文化財学(歴史資料を用いた神社建築の復元的研究)	
	助教	下田 実	国語科教育における学習の「場」の成立及び機能に関する研究	
	国際言語文化研究	教授	重迫 和美	現代アメリカ文学(ウィリアム・フォークナー研究)
		教授	佐々木 淳	統語論を中心とした対照言語学
教授		Damon E. Chapman	応用言語学(異文化間コミュニケーション・異文化理解)	
准教授		中里 有二	日本語教授法、コーパス言語学を中心としたコンピュータ言語学	
准教授		大里 弘美	英語教育学(カリキュラム開発研究)	
講師		藤田 郁	近代イギリス文学(アルフレッド・テニスン研究)	
非常勤講師		中尾 佳行	英語学(チョーサーの言語研究)	
非常勤講師		今林 修	英語文献学・英語文体論(チャールズ・ディケンズの言語・文体研究)	
非常勤講師		本岡 直子	英語教育学(教科書研究・リーディング指導研究)	
情報メディア研究		教授	山田 知子	観光政策による地域活性化・住民主体のまちづくり
	教授	児玉 勝司	メディアが社会に及ぼす影響についての研究	
	准教授	山本 敏久	マーケティング(マーケティング・チャネルにおけるパワー構造の分析)	
	講師	山口 梨江	社会情報学(リスク・コミュニケーション研究)	
	講師	林 春伽	観光人類学・日本民俗学(人間と観光の共存及びヴァナキュラーな実践)	
臨床心理学専攻	教授	深田 成子	発達心理学(社会規範・解決方略)	
	教授	吉田 弘司	実験心理学(対象認知と顔認知・障害児者の認知機能評価)	
	教授	伊藤 克浩	認知心理学(人間の情報処理)	
	教授	一円 禎紀	臨床心理学(精神科心理臨床) <公認心理師・臨床心理士>	
	教授	塚脇 涼太	社会心理学(社会的行動と対人関係)	
	教授	堀内 聡	臨床心理学(ストレスマネジメント・ため込み) <公認心理師・臨床心理士>	
	准教授	義田 俊之	臨床心理学(異常心理学・メタ認知療法) <公認心理師・臨床心理士>	
	准教授	吉儀 瑠衣	臨床心理学(青年期臨床・描画法) <公認心理師・臨床心理士>	
	准教授	神谷 真由美	臨床心理学(青年期の自己愛傾向) <公認心理師・臨床心理士>	
	講師	三原 健吾	臨床心理学(ウェルビーイング・ストレス) <公認心理師・臨床心理士>	
	講師	木谷 智子	臨床心理学(青年期のアイデンティティ形成) <公認心理師・臨床心理士>	
	講師	金子 紗枝子	教育心理学(記憶と学習・学習支援) <公認心理師>	
	非常勤講師	吉野 敦雄	痛みに対する精神医学的介入と脳科学研究 <精神科医>	
	非常勤講師	李木 明德	障碍臨床学(障害児の母親の養育観) <公認心理師・臨床心理士>	
	非常勤講師	堀田 裕司	臨床心理学(産業・労働分野のメンタルヘルス) <公認心理師・臨床心理士>	
	非常勤講師	岡野 泰子	臨床心理学(カウンセリング・ロールシャッハテスト) <公認心理師・臨床心理士>	
	非常勤講師	三好 真人	コミュニティ心理学(セルフヘルプ・グループ) <公認心理師・臨床心理士>	
	非常勤講師	山本 学	犯罪心理学	

担当教員・職名は、2024年5月現在のものです。

《比治山大学・比治山大学短期大学部案内図》



広島市内からのアクセス

**A JR (約10分)**

- JR新白島駅
- 新白島駅[アストラムラインに乗りかえ]  
広域公園前方面 5分(230円)
- 不動院前駅(比治山大学前)  
徒歩 約5分
- 比治山大学・比治山大学短期大学部

**B 路線バス (約15分)**

- JR広島駅  
エールエール前20番乗り場
- 広島交通/千足・深川・高陽方面行  
(にぎつ経由) 約12分(230円)
- 牛田新町4丁目(比治山大学前)  
徒歩 約3分
- 比治山大学・比治山大学短期大学部

**C 広島港から (約40分)**

- 広島(宇品)港  
徒歩 約2分
- 広島港栈橋[バスに乗りかえ]  
広島バス/広島駅行(元宇品口経由)  
約25分(220円)
- 本通駅[アストラムラインに乗りかえ]  
広域公園前方面  
9分(230円)
- 不動院前駅(比治山大学前)  
徒歩 約5分
- 比治山大学・比治山大学短期大学部

**C 路線バス (約15分)**

- 広島バスセンター 11番乗り場  
広島交通・JRバス/高陽方面行  
約12分(230円)
- 牛田新町4丁目(比治山大学前)  
徒歩 約3分
- 比治山大学・比治山大学短期大学部

**D アストラムライン (約13分)**

- 県庁前駅  
広域公園前方面  
8分(230円)
- 不動院前駅(比治山大学前)  
徒歩 約5分
- 比治山大学・比治山大学短期大学部

※令和6年4月1日現在の情報です。



比治山大学  
比治山大学短期大学部

HIJIYAMA

〒732-8509 広島市東区牛田新町四丁目1番1号  
TEL (082) 229-0150(入試広報課直通)  
FAX (082) 229-8603

 **0120-229-145** (入試専用)

E-mail nyushid@hiiyama-u.ac.jp

URL <https://www.hiiyama-u.ac.jp/>